みんなで学びひろめよう！ **碧川かた研究会報** 第24号

2022年5月 事務局：〒681－0061 岩美町高山824 Tel&Fax 0857 73 1051 yotsui@ncn-t.net

第21回研究会を5月15日（日）に米子立図書館で行いました。

令和4年度になり、今年は碧川かた没後60年記念の年で、ブックレットを発行する予定です。会員の持てる力を合わせて、よいものにして行くつもりです。

さて、今回は第六章後半の、かた一家が京都に行く昭和2年から終戦の昭和20年までの間について、かたと道夫を取り上げました。

研究会の様子

かたは京都にいても、「京都女権同盟代表」の肩書をもっていた。夫企救男は「小樽新聞」に連載小説を書いていたが、一九三四（昭和九）年四月、五八歳で死亡する。

「道夫のカメラマンとしての仕事」については、米子シネマの吉田明弘さんが発表した。日活京都撮影所で忙しく仕事をし、入院を機に医学映画（手術撮影）の実績も残した。

仕事が東京多摩川に移り、昭和九年、一家はふたたび東京に帰った。

水を得た魚のように、かたは、婦人参政権の国会請願（昭和一二年）、「飲食時間制に関する請願」（午後五時ヨリ十時）（昭和一四年）、有妻の男子の姦通罪を認めよとの「刑法改正に関する請願」（昭和一四年）をだしている。

発表の吉田さん

昭和20年3月東京大空襲の後、かたらは疎開するが、かたの疎開日記がたつの霞城館に残されていて、私たちが現代語に解読したものを資料として配布した。疎開先での食料不足にも細々と耐えた様子がよくわかる。

たつの霞城館かた資料と鳥取県立博物館かた資料

たつの市の霞城館は、昨年4月から市の指定管理施設（委託先：公益財団法人童謡の里龍野文化振興財団）として運営されている。

そこに着任した義則敏彦学芸員が霞城館のかた資料をすべてデジタルデータにして研究会にくださり、交換として鳥取県立博物館のかた資料をデジタル化するために、4月26日に来られました。

研究会の会員はサポートするため集合し、撮影の手伝いをしながら、日頃は目にしない資料を見せていただきました。後日データをCD版で県博と研究会にもらいました

かた研究会としても今後の活用が期待できます。

（四井）

県博での資料撮影の様子

たつのとの交流コーナー

たつの市は三木露風が晩年を過ごした三鷹市とは姉妹都市になっていて、今年は交流20年記念で、たつのの朝ドラかたの会も、大勢が6月14・15日に行かれるそうです。三鷹では露風の新たな資料が出ており、かたの会会員も楽しみにしておられるそうです。

新たな社会を構築する時代に向けて

碧川かたを取り巻く様々な人間関係、中でも「露風の赤とんぼ」に最も関心をもち、特に詩を目にするたび懐古の念に駆られる。いかにその詩が感情を沸き立たせるのかに興味を抱いた。

後年、露風によれば、「私が詩を作るようになったのは偏へに神様の御恩寵であるが、其の中にあって母の愛があった。母は宗教心の篤い人で詩や歌の嗜好があり、万葉集の歌をくずして歌ったり、即興的なものであったが、幼い頃、子守唄かわりに聞かせて呉れた。」と懐かしがっていると記されていた。反面、抒情的な詩からは打ってかわって、近代的な婦人解放の先駆者となるその勇気。気概をもち、努力し、《婦人参政権運動に専心し、禁酒運動などに活躍した》いわゆる、三木露風の『赤とんぼ』の母である。

当時の女性達はまだまだ慎み深かった時代であり、天授の叡智の覚醒にもよるが、夫への信頼と敬愛からストレートに啓発に挑んだ碧川かたの行動力には目を見張るものがある。

今世紀に於いて、未だ、旧態依然の世界が見受けられている。従って、女性の社会的向上は時代の推移に敏感に反応し、社会的な根本問題を考えていき、女性の地位を高めることと思われる。献詩の一片にみる碧川かたの人物像は、「性篤実にして堅、健全な思想を有し、女性擁護に尽くす。花に似たる詩歌を作り、其の資性を我に思はしめたり。三木露風」と謳っている。

碧川かたについての人・生涯理解はやっと関口に達したという程度のものに過ぎないが、深く関心をもち研究会に参加しました。検証、調査、研究と続けていく中、出版までの認識の到達点までもう間近か。一人でも多くの方々に勇気と希望を与えていければと願っております。

米子市　渡部　栄子

……

●次回の研究会は　**湯梨浜**　です。

［日時］　**令和4年6月25日（土）**

午後1時半～3時半

［場所］　湯梨浜町中興寺　龍徳寺

［内容］『碧川かたの生涯』出版に向けて

・第7章　戦後、頼みは市川房枝へ

・第8章　企救男とかたの子どもたちと

芳子の夫内田吐夢

・前回参加の方は目次と安部宙之助資料をご持参ください。

どなたでも参加できますので

マスク着用で、気軽においでください。